

子どもの育ちを支える絵本選びを促す研修プログラムの開発と実践

絵本による学び推進研究会, 岡山支部

活動の目的

地域の中で絵本に関わる実践に長年携わっている実践家と協同しながら、子どもの成長を支える絵本を選ぶ視点を身につけることは、保育者の専門性の向上につながる有益なことと考えられる。さらに、保育者が学びを通じて得たことを、保護者にも伝えていくことによって子育て支援にもつながるだろう。そこで、地域の実践家と共に、子どもの成長を支える絵本選びの視点を促す研修プログラムを開発し、試行的に実践している。

活動の内容及び経過

地域の実践家である吉澤佳子氏を講師とし、地域家庭文庫主催者である梶谷恵子氏や赤松百合子氏や東京大学教育学研究科助教の植阪友理氏と協力して、子どもの育ちを支える絵本選びの視点を身につけることを目指した研修プログラムを開発し、2ヶ月に1度程度のペースで試行的に実践した。講師からの話をきくだけでなく、事前に保育者が自らの園などで読み聞かせなどを行い、つぶやきを記録した実践などを持ち寄って検討した。また、ここでの学びを、親子で参加する機会（親子コミュニケーションタイム）で保護者に向けても発信した。参加者は、特定の園の保育者のみならず、他園の保育者、保護者や中学校、小学校といった他の校種の教員、大学関係者など、20名から30名であった。

活動の成果・効果

保育者が保育を行う際に、地域の実践家の視点も意識しながら絵本選びを行うようになり、子どもの発言のなかに見られる絵本への言及に気付きやすくなったという報告が見られた。また、保育のなかで絵本を会したユニークな実践が展開した。例えば、この実践で取り上げた絵本「サラダとまほうのおみせ」（カズコ・G・ストーン、福音館書店）の世界を、子どもが自分たちで劇にして楽しむといった事例も見られた。この実践の詳細は「子どもの育ちを支える絵本選びを促す研修プログラムの開発と保育実践への展開－ある公立幼稚園における地域・大学との協同実践研究の記録－」（サクセス第2回懸賞論文、優秀賞受賞。https://goo.gl/CVVPyGよりダウンロード可能）に詳述している。この他にも、幼稚園に植えられたみかんの実をからすから守ろうと、「コッコさんのかかし」（片山健、福音館書店）に触発されて、子ども達がかかしを作りはじめるという実践事例も見られた。この実践では、収穫されたみかんが非常にすっぱかったこともあり、その食べ方を保護者と一緒に考えて園で報告しあうなどの活動にもつながった。また、



地域の人と協力して、甘いみかんを収穫するために、肥料をまくなどといった活動にも展開した。

さらに、この実践を通じて保護者の読み聞かせ行動が変容した。具体的には、読み聞かせ時間が極端に少ない保護者層が減少したことや、絵本を選ぶ際の観点に変容が見られた。子育て支援にもつながった事例と考えている。

今後の課題と問題点

今後もプログラムを継続的に開発することと、小中学校や学童など、地域の他の教育機関と連携すること、さらに効果を定量的に評価することが求められる。

- 代表者：小川浩美 ●所在地：岡山市中区福泊
- TEL：086-277-2209
- E-MAIL：tomiyamay1@city.okayama.lg.jp
- 設立年：2016年 ●メンバー数：12名